



# 信州デジタルキッズラボ

## 第2回 研修会

日 時 2016年4月23日（土）13時～16時30分  
（受付12時30分～）

会 場 長野大学 2号館 202号教室

長野県上田市下之郷658-1

参加費 500円

### 日程

0 受付 12時30分～

1 開会 13時 「信州デジタルキッズラボ再起動」杉浦 徹（長野大学助教）

#### 2 研修① タブレットを活用した実践事例報告

設立集会から早2年。その間、タブレットを中心としたICT活用は徐々にすすんでいます。再起動一回目の今回は実際に支援学校、通常学校で実際に活用されている先生方に報告をしていただこうと思います。活用方法は勿論、導入時の留意点やコンセンサスの構築等、ヒントがたくさんあるかと思っています。

①「支援学校での活用」（大久保哲綱也 長野県上田養護学校教諭）

②「中学校での活用」（溝口博 上田市立第六中学校 教諭）

③「小中学校のデジタルキッズ～実践事例と今後の可能性」

（原伸生・青木高光 長野県稲荷山養護学校 自立活動専任教諭）

#### 3 研修② こんなことで困っています

この時間は、申込時に書かれた参加者のお悩みにお応えする時間です。「こういうことでこまっているんだが、タブレットが有効か？」「よいアプリはないか」等に、講師だけでなく、参加者相互の情報交換ができればと考えています。

16時30分終了予定

<お願い>

①不明な点はtoru6848@gmail.comにお尋ねください。

②信州スイッチラボのブログでこの研修についてお知らせすることがあるかもしれません。時々ご覧下さい。



# 信州デジタルキッズラボ

## 会員募集のお知らせ

### 設立趣意

これまで、知的障害や肢体不自由等、学習や生活に困難を示す子ども達の教育は、主に特別支援学校や特別支援学級で行われてきました。しかし、通常学級にも様々な困難を示す子ども達がたくさんいることが報告されるようになりました。

そこで示される主な困難さは、知的障害がないのに、字が書けない、字が読めない、計算ができない等、教科学習の困難、すなわち学習障害と呼ばれるものです。これらの困難さは、単に学習をスムーズに遂行できないというだけでなく、できないことで自信を失ったり、頑張ってもできないことで、学習以外の日常生活や学校にもマイナスのイメージを持つことにつながり、結果的に、学校卒業後の人生にまで、大きな影響を及ぼすと考えられます。

従来、そのような困難さへの対応は、一般的な教授法の下、反復的に訓練を繰り返すことが主でした。個々に努力し、子ども達が独力で解決しようとするものがほとんどでした。

もちろん、努力することは大切なことですが、しかし、困難さの解決には多大な労力を費やすことになり、また努力しても目指す目標にたどり着かないことも少なくなく、そのことでかえって意欲を失うことがしばしばあると考えられます。

このような困難さの解決に、近年、電子情報技術の力を活用する方法の有効性が指摘されるようになりました。PC、タブレット端末、電子書籍、多機能文房具等を活用して、困難さを、具体的に個々に合った方法で解決できる可能性が報告されるようになりました。しかしながら、このような機器を活用した支援方法についての情報と技術は専門的なものが多いために、特定の教員や保護者に局在化することが多く、教室場面で、より一般的な手法として活用される場面が少ないと思われまます。また学校では、人事異動によって特定の教員がいなくなれば、同時に機器を活用した支援の基本的な哲学、活用のノウハウが失われることがしばしばあります。

これは望ましい状況であるとは言い難いものです。

このような現状を鑑み、

- ① 読み、書き、算数に困難のある子ども達、いわゆる学習障害のある子ども達に対する機器による支援の重要性を深く理解すること。
- ② 学習障害を支援する機器に関する情報、活用方法を共有し、それを拡大すること。
- ③ 機器を活用した授業実践を蓄積し、そこで生まれた有効な支援方法を一般化すること。

これら3つの目的を達成するために信州デジタルキッズラボを立ち上げることにしました。

この目的に賛同し、共に学び、ともに活動する同志を募集します。  
多くの有意の皆さんのご参加をお待ちしています。

2014年2月

設立発起人 松村妙子（上田市教育委員会）  
青木高光（長野県稲荷山養護学校教諭）  
杉浦徹（長野大学社会福祉学部）